

# 1. 評価報告概要表

作成日 平成19年9月28日

## 【評価実施概要】

事業所番号	1170900573
法人名	株式会社関東メディカル・ケア
事業所名	グループホームフローラ久喜
所在地	〒346-0014 埼玉県久喜市吉羽1-6-29 (電話) 0480-24-4477

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成19年9月19日

## 【情報提供票より】(平成19年9月5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	10 人, 非常勤 5 人, 常勤換算 5.9人

### (2) 建物概要

建物構造	木造造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	73,000 円	その他の経費(月額)	25,100円 + 実費	
敷金	有(250,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

### (4) 利用者の概要(9月5日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	8 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81 歳	最低	69 歳	最高	90 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	フローラ太田小通りクリニック・めぐみ歯科・蓮田病院
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、駅から徒歩5分の閑静な住宅街にあり、近くには公園も点在しており、入居者の散歩コースとなっている。建物は、2階建ての2ユニットで安全と居住性を配慮した構造となっている。同一法人の他のグループホームの職員との連携や情報交換も積極的に行われている。平成17年に開所され2年目になるが、現在まで入居者の終末期の事例は無い。関連医療機関の協力体制が整っており、現在胃ろう造設者や人工肛門など医療面の管理の必要な方の受け入れも積極的に行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回が初めての外部評価の受審である。評価の結果に基づき、改善課題について今後話し合いしていくことを期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営者・管理者で自己評価を行った。評価を受けることは職員にも話してあるが、詳細な項目まで各職員に周知されていない。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>平成19年8月に第1回の運営推進会議が行われたところである。参加者は利用者・家族・市の担当者2名・介護支援専門員及び管理者で、地域の民生委員や自治会長等は参加していない。利用者に関する制度上の事や居室の空き状況などについて、市の福祉課に情報交換や相談をするなど連携がとれている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>面会時の家族からの職員への意見や苦情、情報開示請求などに対し適切に対応し、その内容について話し合い、検討され、職員に周知されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>現在自治会や老人会などへの参加は無い。今後地域への働きかけを行い交流を深めていきたいと思っている。</p>

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	1・2階各ユニットの職員事務所内に事業所独自の理念が掲示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、職員の採用時は、面談で理念を伝え理解してもらおうようにしている。職員の現場での実践でそのつど再認識している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会・自治会に入会しておらず、地域との交流は十分ではない。		今後地域の自治会などに加入されることを期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が第1回目の評価であり、自己評価は運営者・管理者で行なった、職員は評価を受けることは理解しているが、自己評価の細部までは各職員に通知されていない。		自己評価、今回の外部評価の結果を活用して、具体的な目標を上げた改善計画を作成し、職員で定期的に振り返ることで意識の向上につなげられることが期待される。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	第1回の運営推進会議が行われた。利用者・家族・市の担当者・介護支援専門員及び管理者出席のもとで実施し、提出議題について話し合いが持たれたが、民生委員等地域の住民の参加には至らなかった。		今後地域住民の運営推進会議の参加について、市の社会福祉課と相談し依頼する予定である。現在取り組んでいる内容について運営推進会議のメンバーに報告し、会議で意見をサービス向上につなげていかたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者に関する制度上の事項や居室の空状況等について、市の福祉課に情報交換や相談をするなど連携が取れている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の暮らしぶりについては請求書を送付する際に久喜だよりを同封したり、個々の状況については、問題が発生した時そのつど家族に報告し対応している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時の契約書に苦情窓口の説明を明記し説明している。意見・苦情に対しては申し送り簿で職員にも周知し、必要な話し合いを持ち、反映されている。また施設長日誌で法人本部にも報告している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員間では引継ぎをしっかりと行うなど十分な対応がなされているが、入居者への配慮は特にない。		新しい職員が入る場合は、利用者きちんと紹介し、利用者からホームのことを教えてもらうような工夫をされてみてはいかがか。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人として認知症に関する研修、ベッドメイキングなどの研修が年間を通じて行われている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームによる情報交換や連携があり、質の向上に努められている。		近隣のグループホームとの交流会を企画し、交流のきっかけ作りを検討中である。今後のサービスの質の向上を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員からの声かけや個別対応などを通してホームに馴染んでいただく。地域内の散歩や地元の人達の声かけもある。家族の面会時にも連絡を密にして対応している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との信頼関係作りのために、掃除や配膳、後片付けなど日常の活動を利用者と職員が共に行っている。また一人ひとりの表情や雰囲気、季節の変化などから来る気持ちの変化にも気配りされている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族にも相談し、利用者の希望に添えるように努力している。例えば帰宅願望のある利用者などには、職員が付き添い本人と話し合いながら、散歩等気分転換して気持ちを落ち着かせている。家族にも相談し希望に添えるように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるために思いや意見を聞き、支援するうえで課題があれば、関係機関・医療機関・家族とも相談して介護計画が作成されている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは6ヶ月ごとに行われ計画を更新している。個々の状況に応じて問題が発生した時には、そのつど検討し、計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一のデイサービスや有料老人ホームなど関連施設があり、行事などを連携して行うこともある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常は月2回の訪問診療と歯科の往診も実施されている。かかりつけ医の受診については家族などが対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアについて入居時に家族に確認している。現在、医療処置が常に必要な場合は医療施設に入院するが、一時的な点滴の処置等については、状況に応じて主治医・看護師が対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない言葉かけや対応をされている。個人情報の資料については5年間保存の取り決めがある。家族の開示請求にも応じており、開示した事例もある。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れはあるが、本人のペースに合わせて、洗濯物をたたんだり掃除をしたり、職員が利用者に合わせて時間を過ごされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの心身の状況により食事の準備や片付けなどを行っている。職員と利用者は同じテーブルで同じ食事を一緒に食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には日中の入浴が行われているが、本人の希望によっては対応、支援している。1階浴室にはリフトの設備もある。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	定期的なレクリエーションを実施している。希望者で室内ゲームや近隣への散歩、買い物等が行われている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見・紅葉狩りなど季節ごとの外出・ドライブ・食事会など定期的に行われている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	正面入り口や玄関については施錠されていない。1・2階の各フロアについては、安全性を配慮して自動ロック式のドア(暗証番号にて解除)があるが、状況に応じて解除されている。		ドアにセンサーを設置して鍵をかけない工夫をするなど。他事業所の取り組みを参考にして、日中は鍵をかけないケアの取り組みを検討されたい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導による防災訓練を年2回実施している。消火設備については、業者が定期的にメンテナンスを実施している。		防災マニュアルは職員の変更等が内容に反映されていないので見直しが必要である。また今後は地域の方々の協力についても検討が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限・塩分制限・習慣調理方法・習慣など、一人ひとりの心身の状況に応じた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には絵画や壁面装飾などがあり、生活感のある空間作りの工夫が見られる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が持ち込んだ家具など使い慣れたものが配置され、家族と相談しながら利用者の居心地の良い居室づくりに配慮されている。		